

3－6					
主 題	障害を持つ方・一般的な就労が困難な方と共に働く				
副 題	就労支援プロジェクトの振り返りと働く場の拡大について				
キーワード 1	就労支援	キーワード 2	働く場の拡大	研究(実践)期間	24 ヶ月

法人名	社福) 白十字会	事業所名	特別養護老人ホーム白十字ホーム
発表者(職種)	綿谷奈保子(介護職員)		
共同研究(実践)者	荻野順子(介護職員)、他		

電 話	042-392-1375	FAX	042-393-1255
-----	--------------	-----	--------------

事業所紹介	「トトロの森」のモデルとなった八国山のふもとに建つ定員182名の従来型の特養。併設の東京白十字病院、デイサービス、老健、小規模多機能等と連携し地域に開かれた施設として包括的なサービスに努めている。利用者の方が「安心、いきいき、心豊か」に生活できるような支援を目指している。
-------	--

《1. 研究(実践)前の状況と課題》

白十字ホームでは、2010年より障害を持つ方たちが仕事をする場としての取り組み「就労支援プロジェクト」を行っている。2013年にポスターセッションでこの取り組みの発表を行った。その中の最後に「作業所や就労支援室と施設が連携し、サポート体制をとっていけば一般企業の就労がきびしい障害を持った方も十分に働き手として期待以上にこたえていただけると確信しました」との一文がある。

その後、就労支援プロジェクトに関しては振り返ることがなかったが、2024年4月に生産性向上委員会が設置され、自分たちの仕事の振り返り、見直しが必要となった。その際、白十字ホームで行っている、就労支援が必要な方への取り組みの現状を振り返り、今後も、就労支援が必要な方と共に働いていくには、どんな仕事が提供できるかを改めて考えてみる必要があるとなった。

《2. 研究(実践)の目的ならびに仮説》

2024年4月より設置された生産性向上委員会にて、自分たちの仕事の見直しをし、白十字ホームで行っている就労支援が必要な方への取り組みの中で、就労支援担当者はどんな関わりをしていて、さらなる業務の切り出しを行うことにより、働く場の拡大につながるのではないかと考えた。

《3. 具体的な取り組みの内容》

まずは、生産性向上委員会で就労支援プロジェクトを振り返ってみた。2013年当時の仕事は「利用者の朝食、昼食の食器の片付け、ベランダの花植え・水やり、草取り、車椅子掃除、

シーツ交換」。2026 年現在の仕事は、私たち職員が利用者へのケアに集中できる「利用者の朝食、昼食の食器の片付け、ベランダの花の水やり、草取り、車椅子掃除シーツ交換」に加え、厨房業務「食器洗浄、盛り付け、食材の下処理」も行っている。障害を持った方だけでなく、一般的な就労が困難な方も働いている。就労支援が必要な方の採用に関しては、下膳の仕事を例にしてみると、関係事業所から紹介された方は、まず見学を行い、次に実習（実習回数は決まっていない）し、その仕事が可能かどうか見極めを行う。仕事をお願いできるようならば、面接し、採用となる。採用後も担当者は職員から勤務状況や仕事状況を聞き、随時面談を行っている。その他、身体的精神的な疾患を持った方が多いので、1 ヶ月に 1 回開催している就労支援プロジェクトにて、関係部署の担当者、個人または団体の仕事状況の確認をおこなっている。関係部署の方によると、働きたいと思っている方は多い。白十字ホームのように週 1 回 2 時間から働ける仕事はなかなかないのが現状とのこと。

その後、自分たちの仕事の見直し、業務の切り出しを行った。

《4. 取り組みの結果》

業務の切り出しを行った結果

- ・利用者の洗濯物の仕分け・配布
- ・今まで行っていなかった夕食の食器の片付け（今までは朝食・昼食のみ）

その後のステップアップ

- ・短時間で働いていた就労支援が必要な方が、白十字ホームの介護職の仕事に就いた
- ・白十字会で開催している初任者研修を受講し、資格の取得をした
（将来的には夜勤も行い、常勤職員になりたいと希望している）

《5. 考察、まとめ》

今回、生産性向上委員会を中心に、「就労支援プロジェクト」の振り返りを行い、改めて自分たちの仕事を見直し、業務の切り出しを行い、就労支援が必要な方に働く場を提供することによって、働く場の拡大につながった。短時間で働いていた方が介護職の仕事に就いた。

《6. 倫理的配慮に関する事項》

なお、本研究(実践)発表を行うにあたり、ご本人（ご家族）関係施設、事業所に口頭にて確認をし、本発表以外では使用しないこと、それにより不利益を被ることはないことを説明し、回答をもって同意を得たこととした。

《7. 参考文献》

「白十字ホームに私たちの仕事場ができた」2011 年 3 月 31 日発行、東村山市福祉ネットワーク事務局

《8. 提案と発信》

就労支援プロジェクトを開始し 16 年目。紆余曲折ある中で、現在、下膳の仕事をしている方が 15 名。振り返り、分析する中で、障害を持つ方・一般的な就労が困難な方の働く場所の提供と共に職員の業務負担軽減が行えていることに自信を持ち、このプロジェクトを積極的に推進していきたい。